

## > 産学官の連携



### 有機エレクトロニクスイノベーションセンター開所

有機エレクトロニクスは、軽くて曲がるフィルム状の照明・太陽電池・ディスプレイの生産を可能にし、同時に省エネであるという特徴を有した次世代の技術です。世界が注目し、開発競争が激化しているこの分野で、山形大学は世界をリードし続けています。

平成23年、山形大学は有機EL、有機太陽電池、有機トランジスタの基礎研究部門が結集した、世界でも例を見ない先端研究拠点として、有機エレクトロニクス研究センターを工学部に開設しました。その研究成果を実用段階へと展開させる拠点として平成25年4月、米沢市オフィスアルカディアに新たに開所したのが「有機エレクトロニクスイノベーションセンター」です。

有機エレクトロニクスイノベーションセンターは「夢からビジネスへ」をキャッチフレーズに、有機エレクトロニクス研究センターにて培われた世界トップレベルの基礎研究技術を、産学官の連携のもとに量産・ビジネスにつなげる応用・実証研究の拠

トムソン・ロイター  
高被引用論文数  
(国内：材料科学分野)

1	東京大学	37
2	東北大学	27
3	京都大学	14
3	大阪大学	14
5	山形大学	13
6	東京工業大学	10

(出典:週刊朝日  
「大学ランキング 2014年版」)

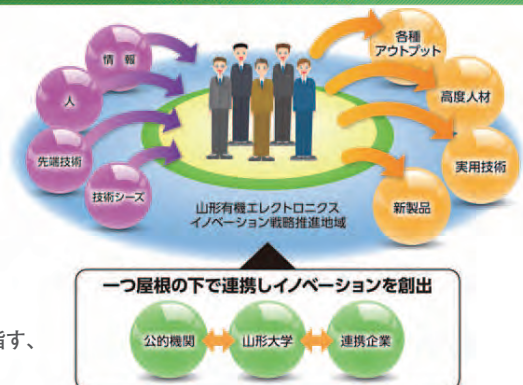


点であり、2階建て延べ床面積4,367㎡のセンターには、1,200㎡のクリーンルームに高精度インクジェット装置、スクリーン印刷装置、クラスター型蒸着装置などの最先端設備を備えるほか、企業派遣者がレンタルし常駐できるインキュベーション室を設置しました。民間企業出身者を中心とした「スーパーイノベーター」が核となり、企業のニーズに応じた製品の実用化に取り組みます。

また、リチウムイオン電池の長寿命・低コスト化を狙う蓄電デバイス分野については、イノベーションセンターに近接した場所に「蓄電デバイス開発研究センター」を建設しており、平成25年秋に完成予定です。

研究関連設備の充実化を図りながら、山形大学は世界一の有機エレクトロニクス研究拠点の形成を目指します。

「拠点」機能・「技術の橋渡し」機能



有機エレクトロニクスイノベーションセンターが目指す、「拠点」機能・「技術の橋渡し」機能のイメージ